

- 実施日 令和6年7月17日(水) 13時～16時30分
- 会場 にぎわい交流館AU
- 参加者 県内市町村文化行政担当職員、公立文化施設職員、オブザーバー(地元有識者等)
- 参加者数 20名(11市町村)
- 講師 文化commons研究所 吉本光宏氏
- 目的 県全体で推進する文化芸術に関する政策について、推進体制の主要な一翼を担う市町村と、方向性や認識を共有し、連携を強化する。
- 研修テーマ ①国の文化政策の現在の動向を捉え、各自治体の施策への反映について考える。
②市町村相互及び文化施設相互の有機的連携に向け、情報を共有する。
③地域課題への対策に向けた文化芸術政策の在り方を考える。
- 実施内容 第一部(13:00～14:00) 講義
「文化から変わる –子ども、お年寄り、障がいのある人–」
第二部(14:10～15:50) 情報交換及びグループワーク
① 県からのお知らせ(県民アンケート結果共有、事業紹介等)
② 情報交換及びグループワーク

事前アンケート

- 全市町村を対象に事前アンケートを実施し、各市町村が取り組んでいる事業について、共有を求めるとともに、次の視点からの検証を依頼した。
 - ①管内特有の文化芸術資源を活用しているか。
 - ②管内外の文化芸術活動を行う団体・個人との連携により実施しているか。
 - ③文化芸術分野と、福祉や教育といった他分野とが連携して実施しているか。
 - ④文化・社会教育施設を活用して実施しているか。
- アンケートの結果からは、これまで把握できていなかった各市町村の施策の方向性や具体的な取組など、基礎的な情報が収集できたほか、課題認識を確認することができた。

講義

- 「文化から変わる –子ども、お年寄り、障がいのある人–」
文化政策の現在の動向を俯瞰した上で、文化芸術基本法が提示する文化芸術と他分野との有機的な連携について、教育や福祉を中心に国内外の実践例が紹介され、文化から地域の課題に取り組むヒントを学んだ。

令和5年度文化芸術の振興に関する県民アンケート調査結果の活用例紹介

- 令和5年度に実施した県民アンケート調査結果から、文化芸術の施策の方向性に関連する設問の回答から、地域別の回答傾向の特性を洗い出し、共有した。(別添資料のとおり)

情報交換及びグループワーク

- 「文化×子ども」、「文化×お年寄り」、「文化×障がいのある人」のテーマごとに、具体的な取組を想定し、実現に向けて整理すべき課題、各主体との連携や実施手法の工夫、効果などについてグループ討議を行った。

事後アンケート

- セミナーへの参加は全市町村の半数程度にとどまったが、事後アンケートには、次のような感想・意見が寄せられ、県に求められる役割を再認識することもできた。
 - ・他の自治体担当者との意見交換により客観的な視点を持つことができた。
 - ・指定管理者制度による具体的な事例、成果、課題の共有の機会がほしい（具体的要望）。
 - ・複数自治体の文化施設やまちなかを会場に、広域的な参加が期待できる官民一体の文化的事業を実施することにより、意識の啓発や文化芸術活動の機運醸成に高い効果が望めるのではないか（具体的提案）。

まとめ

- 以上のように、今回のような機会を持つことは、県の文化芸術に関する政策を総合的かつ効果的に推進するために欠かせない市町村との連携強化に具体的かつ実質的な効果をもたらすことを確認できた。
- また、今回は、地元の大学関係者など、地域内外の文化的事情に精通する有識者にオブザーバーとして参加していただいたことにより、有益な助言を得ることもできた。加えて、県が現在取り組む、事業の質的評価の仕組みづくりに参画している大学生も参加し討議に加わるなど、副次的な効果も大きく、参加者相互が利益を享受できる機会となった。
- 一方で、設定時間の短さから十分な議論が尽くせなかったこと、参加自治体が少なく同規模自治体からの情報収集が叶わなかったこと、事前アンケートにより提供した具体的課題について深掘りする機会とはならなかったことなど、参加者の満足度は十分ではなかったことがうかがえる意見も寄せられたことから、今後の実施に向け改善に反映させることとする。
- 今回のセミナーを起点として、様々な機会を捉え対話の場を創出することにより、更に多様な主体間の連携強化を目指す。